

為了明天 臨時増刊号 2011・8・5

南三陸町支援プロジェクト特集

南三陸町再訪

志津川保育所保育再開

子どもの笑顔と歓声がよみがえる！

☀ 7月19日、東北新幹線古川駅前に8時半に集結した一行7名（諏訪・井上・井岡健・久保田・井岡今日子・香曾我部・趙苗さん）は、車2台に分乗して南三陸町に向かいました。諏訪・井上にとっては、6月1日にジャクエツのトラックに保育再開用の保育遊具を積んで緊急支援に訪れて以来、2度目の訪問です。志津川保育所に130万円分の保育用品を届けたときは、子どもの姿はなく、開設準備にやっと取りかかった職員の方々とホールに荷物を運び込みました。荷物を解いて、職員の方々が「子どもたちがよろこぶわぁ」とホールで三輪車をこいだ姿に心を揺さぶられました。その後乳児室で懇談して、津波の押し寄せたときの模様を伺ったりしました。佐藤園長さんは、前任園である戸倉保育所が津波に流される直前に子どもたちを連れて裏山に逃げ、道なき道をよじ登り、海水がヒタヒタと上がってくる神社で子どもと共に夜を明かしたことなどを、淡々と語って下さいました。

☀ あれから50日、高台にある志津川保育所の園庭まで津波が押し寄せましたが、樹木は枯れることなく深い緑陰をつくり、その下で園児たちがとりどりのシャベルやカップ、バケツを使って砂場遊びに興じていました。ワールドカップで優勝したなでしこジャパンよろしくサッカーボールをける子どもたち、三輪車やスクーターを乗り回す子どもたち・・・園庭には子どもの笑顔と歓声が溢れていました。この子たちの笑顔と笑い声にこそ南三陸の再生を託せるとやっと明るい未来を見た思いでした。



↑ 保育再開に緊急支援した保育遊具 →

南三陸町・佐藤町長と面談

南三陸町支援日中共同プロジェクトについての趣旨を説明

19日午後1時からおよそ1時間、南三陸町仮庁舎町長室で佐藤仁町長と面談しました。面談には、JCC から諏訪代表以下6名、また南三陸町側からは佐藤町長のほか保健福祉課最知課長、首藤周さん、佐藤志津川保育所長、伊里前保育所長、名足保育所主任等保育関係者の方々が参加されました。

☀ 面会の目的: 上海宋慶齡基金会からの支援金について説明し理解を得ること

佐藤町長との面会の目的は、その趣旨を問われて7月6日に送った以下のメールの通りです。面談ははじめに久保田博子前代表がJCCについて説明するところから始まりました。JCCは長年にわたって中国との草の根交流、貧困地区の教育支援に当たってきたことを、事例を上げながら語りました。

南三陸町保健福祉課 首藤周様

お忙しい中を、面会の予約を取っていただきありがとうございました。

昨日いただきましたFAXに従う形で、訪問の目的等について記させていただきます。

1. 面会の目的について

(1) 上海宋慶齡基金会から支援される災害支援金について説明し、ご了解を得たいこと。

- 1) 中国宋慶齡基金会、上海宋慶齡基金会について
- 2) 宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会について
- 3) 宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会(当会)が南三陸町保育復興支援を決めたいきさつについて
- 4) 上海宋慶齡基金会理事会での日本への災害支援金の決定について

(2) 上海宋慶齡基金会からの支援金 200 万円の用途についてご相談したいこと。

- 1) 保育復興支援として使用していきたいこと
- 2) 日中友好草の根交流として、形あるものにしたいこと
- 3) 今年度内(12月末)にプロジェクトの協定書を交わす必要があること
- 4) このプロジェクトを進めるかどうかの判断をいただきたいこと
- 5) 進める際にはそのメンバー構成を明らかにしたいこと

2. 宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会からの出席者について

- 1) NPO代表理事 諏訪きぬ
- 2) NPO副代表理事 井上睦子
- 3) NPO理事(副事務局長) 井岡 健
- 4) NPO前代表理事 久保田博子
- 5) NPO理事 井岡今日子
- 6) 上越教育大学准教授 香曾我部琢

3. 南三陸町からの出席者について

そちらのご判断にお任せいたします。上記の趣旨に添って、該当するポストの方々のご出席をお願いいたします。

4. 災害支援金についてについて

被災者への「義捐金」として配分されるものとは異なり、この「災害支援金」は保育復興支援という目的的な支援金です。共同のプロジェクトが立ち上がり、その趣旨に添った事業が進む目途が立ったときに、先方から口座振込みの形をとって支援金が送られてきます。

5. 宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会のHPについて

<http://www.sokeirei.org/> を開いていただきますと、当会の説明があります。宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会と入力していただいても、HPが出ます。ご覧ください。

13:00に仮庁舎にお邪魔する前に、志津川保育所を訪問させていただいてよろしいでしょうか？

11 時前にはつけるようにしたいと思っています。よろしくお願いいたします。

NPO法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会
代表理事 諏訪 きぬ

続いて諏訪がその日中の草の根交流の中から、今回の災害支援金が日本の子どもたちのために送られることを説明しました。そしてその交流の足跡がさらに若い世代の交流の輪として広がってほしい旨も付け加えました。佐藤町長は、穏やかに肯きながら耳を傾けておられました。こちらの会の性格や支援金の趣旨を的確に把握されたようでした。

☀️ なぜ 南三陸町へ 支援を???

説明に続いて佐藤町長から寄せられたのは、「それにしてもお宅が南三陸町を支援して下さるのはなぜですか？」との質問でした。「何もかも無くなってしまったのだから、どこからいただく支援でもありがたい。しかしその理由もききたい」と。そこで5月2日の臨時事務局会議で南三陸町を支援対象とすることを決めたいきさつをお話しました。故須藤れい前副代表の出身地が南三陸町のお隣の登米であり、その実家の墓地に眠っていられること、子どもの保育と働く母親への支援に生涯を捧げ、中国貧困地区支援にも心を砕かれ、お墓の代わりに学校を！と貴州省に小学校を送られたこと、登米には南三陸の人々が大勢避難しており、南三陸と登米との関係が深いように感じられたこと、そのようなことから、支援先に南三陸町を選ばせていただいたと…。すると「合併する前の志津川町は昔から登米と親しい関係にあった」とのこと。この支援を前向きに受け止めていきたいとお返事をいただくことが出来ました。

☀️ 保健福祉課+保育所スタッフでプロジェクト案を！

9月初め頃までにプロジェクトの案をまとめてほしいとの申し出に、保健福祉課を中心に保育所スタッフも協力して何か形に残るものを練り上げるという線で、一応了解が成立し、飯場を思わせる仮庁舎前で全員の集合写真を撮ってお別れしました。その際、最知保健福祉課長が「流されないで残った南三陸のパンフレットがある」と貴重なパンフレットをプレゼントしてくださいました。

そこには美しい海の写真がたくさん載っていました。いつの日か、美しい海が蘇ることを祈らずにはいられません。以下は7月30日に佐藤町長宛てに出したメールです。

南三陸町長 佐藤 仁 様

梅雨明け以後、各地に集中豪雨が発生し、心落ち着かない日々が続いております。先日19日には、お忙しい中、面会の時間をお割きくださりましてありがとうございました。

私たちが運営しておりますNPO 法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会の趣旨及び活動内容につきまして、深い理解をいただきましたことに、一同深い感銘を覚えています。

上海宋慶齡基金会より贈られてまいりました支援プロジェクトに対する文書の翻訳をお届けいたします。この線に沿ってプロジェクトを発動させることとなりますので、9月はじめまでにまず簡単な企画案をおつくりいただければ幸甚です。

<上海宋慶齡基金会からの支援プロジェクト関連文書>

お仕事に対して感謝を表す。JCCの東日本大震災に対する支援プロジェクトについて、当会の規定によりプロジェクト企画書の提出が必要となります、

- ・プロジェクトの計画内容
- ・実施時期
- ・予算規模
- ・実施場所 などの概要説明が含まれる必要があります。

NPO 法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会
代表理事 諏訪 きぬ

佐藤町長に説明する井岡理事 ↓



→水道・電気は通じましたが、まだ給食は簡易給食。コンビニのおにぎりとマカロニサラダを取る乳児たち



→

「がんばろう！南三陸」の横断幕が随所に貼られた仮庁舎。

前列：最知保健福祉課長以下保育所スタッフの方々。

後列：佐藤町長を挟んでJCC訪問団メンバー。

片付けられつつある瓦礫 ↓



諏訪先生

先日は同行させていただきありがとうございました。これまで、NPOという組織は子育て関係や養護関係はよくお付き合いがありましたが、国際交流関係のNPOとは縁が無くおりました。この交流をきっかけに、日中に新たな橋がかけられ、子ども達の世代にはもっと日中関係は良くなれば良いなあなどと、ごくあたりまえなことを思いながら、町長と諏訪先生、久保田先生のお話



を聞いていました。また、今回、志津川保育所の子どもたちが園庭で元気に遊ぶ姿を見て、子ども達をはげますというよりは、震災後、何もできない無力感や、何かまたおきるのではないかという不安に取りつかれていた自分にエネルギーを貰いました。また、こちらにいらっしゃる用件がありましたら、是非お声掛けください。 香曾我部琢